

# 令和5年度 地域おこし協力隊活動報告

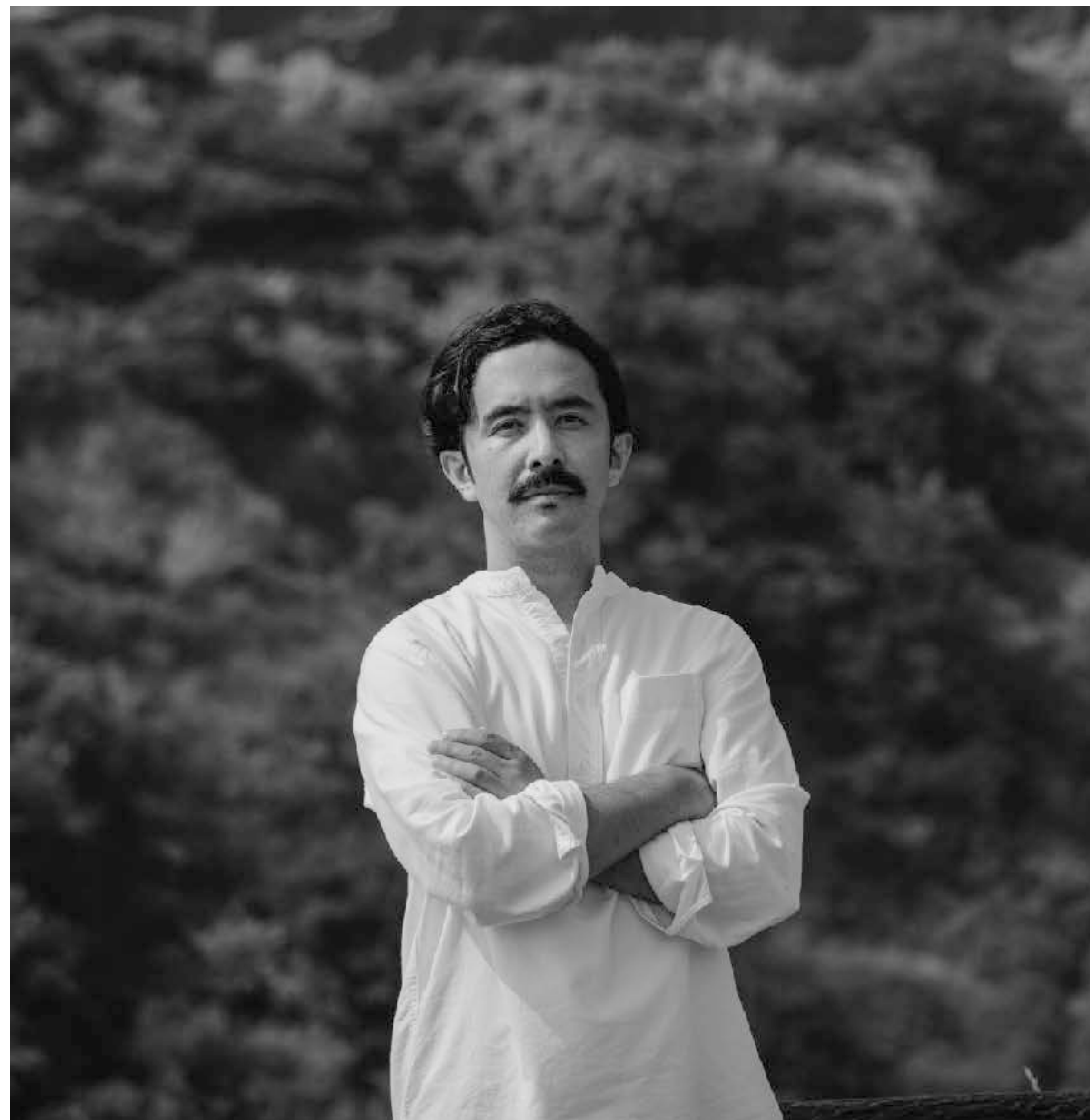
亘理町地域おこし協力隊  
岩村寛人（いわむら かんと）

# 目次

- 自己紹介
- 令和5年度活動 振り返り
  - 1: 各活動の目的
  - 2: 本城裕哉舞台公演の舞台装置製作
  - 3: 鳴き砂アート
  - 4: 浜吉田駅跨線橋改修計画
- 令和6年度活動 活動方針

# 自己紹介

- 岩村寛人（いわむら かと）
- 東京出身
- イギリスの大学で建築を専攻し、日本に帰国。設計事務所での勤務を経て壁画家としての活動をスタート。スターバックスやナイキなどの企業案件を多数手がける。その後は美術家として個展や海外でのアートフェスティバルへの出展など多岐に渡る活動を展開している。
- コロナ禍の中、災害とアートの関係性に興味をもち、亘理町地域おこし協力隊へ応募。
- かつて町の財産であったもの、街の移り変わりによって忘れられてしまったものを改めて美術の資源として活用しコミュニティーに還元することを目標に掲げ美術作家として製作活動中。



# 令和5年度活動 振り返り

# 活動の目的

## 本城裕哉舞台公演の美術製作

- ・前年度より画作していた野外彫刻計画の舞台用に編成した企画
- ・震災復興により失われた景色にヒントを得た作品の製作
- ・別ジャンルの芸術家とのコラボレーションによる自己啓発
- ・他の協力隊との共同事業による広報効果・集客力の拡大

## 鳴き砂アート製作

- ・震災被害が今も残る亘理ならではの環境資源を美術的分野において利活用
- ・美術作家としての復興に対するアプローチの確立

## 浜吉田跨線橋改修計画

- ・老朽化の進む跨線橋の改修
- ・住民の方々の想いの後押し
- ・町の震災からの文化的復興
- ・亘理町の交流人口の拡大に繋げれる事業の確立

# 本城裕哉舞台公演の美術製作

## 協力隊との共同事業

- 本城裕哉氏企画の舞台作品において舞台美術を担当。
- 楽器・家具・梯子・鉄塔を兼ねる大道具を脚本の製作と並行して考案し、プロトタイプの製作を経て最終型の製作を実施。
- 堤防工事で生活の景色から消えてしまった海や川の水面に思いを馳せられるように、柔らかい鏡を組み込んだモジュール式の大道具を60台、成果品として納品。

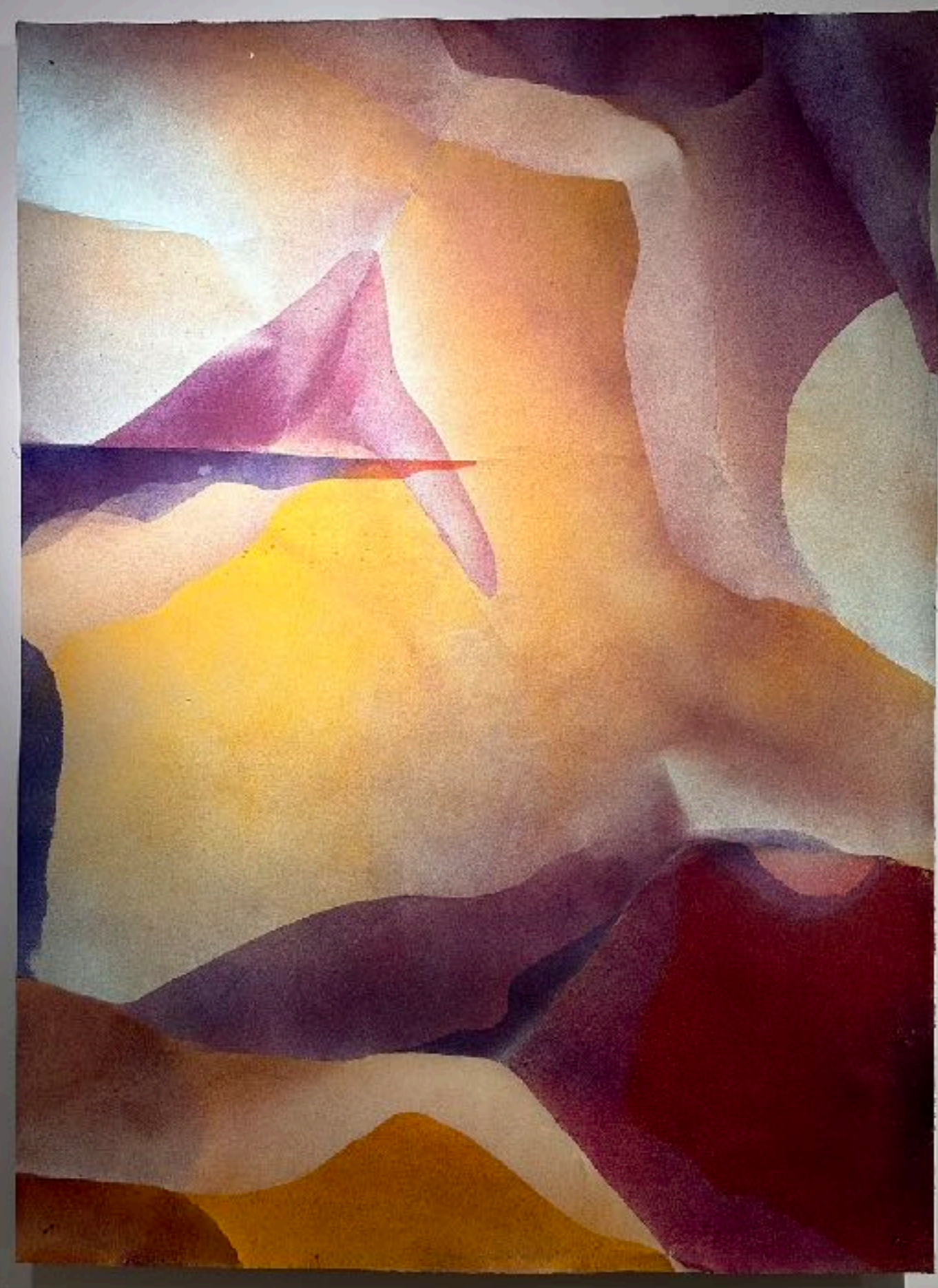




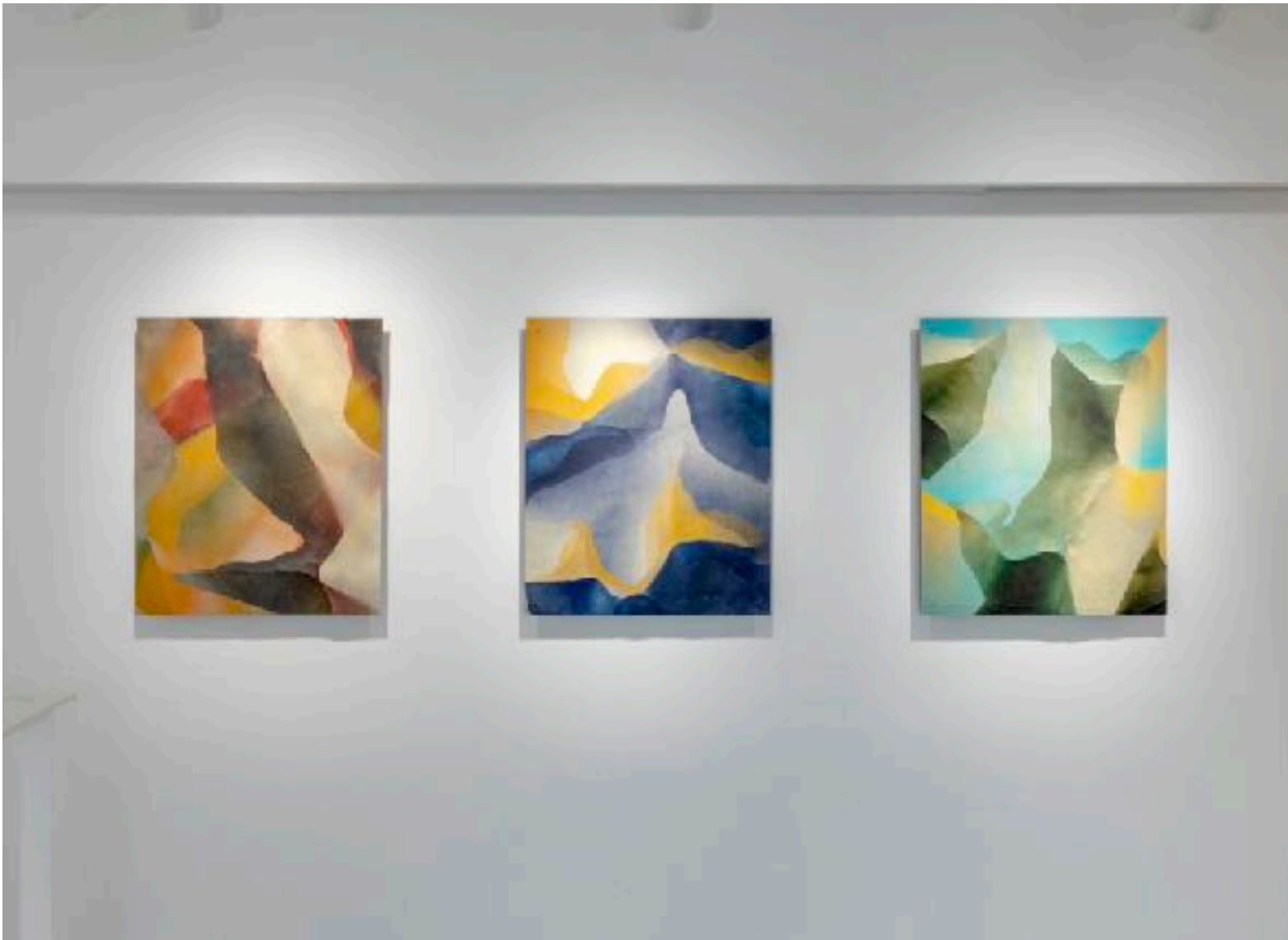
# 鳴き砂アート

## 資源の利活用

- 鳴かなくなった鳴き砂を活用した絵画技法を考案
- 絵画製作を通じて砂を亘理ならではの美術資源として利用方法の提案
- 町外の画廊にて企画展を開催し活動内容の紹介と亘理町のプロモーションを実施 期間：2024年1月11日～1月27日
- 開催場所：HIRO OKAMOTO GALLERY  
東京都渋谷区神宮前 来場人数：332人









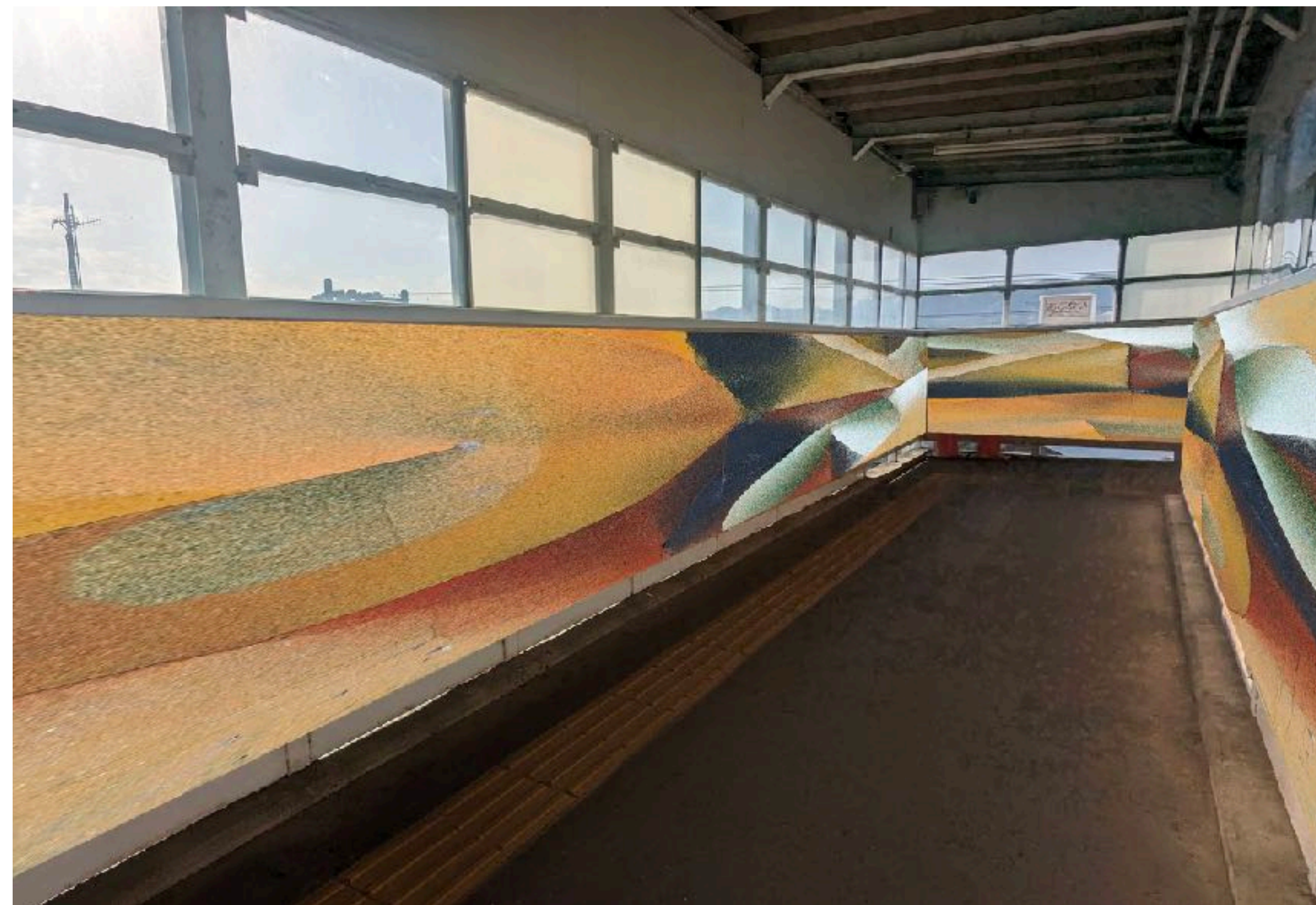
作画のプロセス

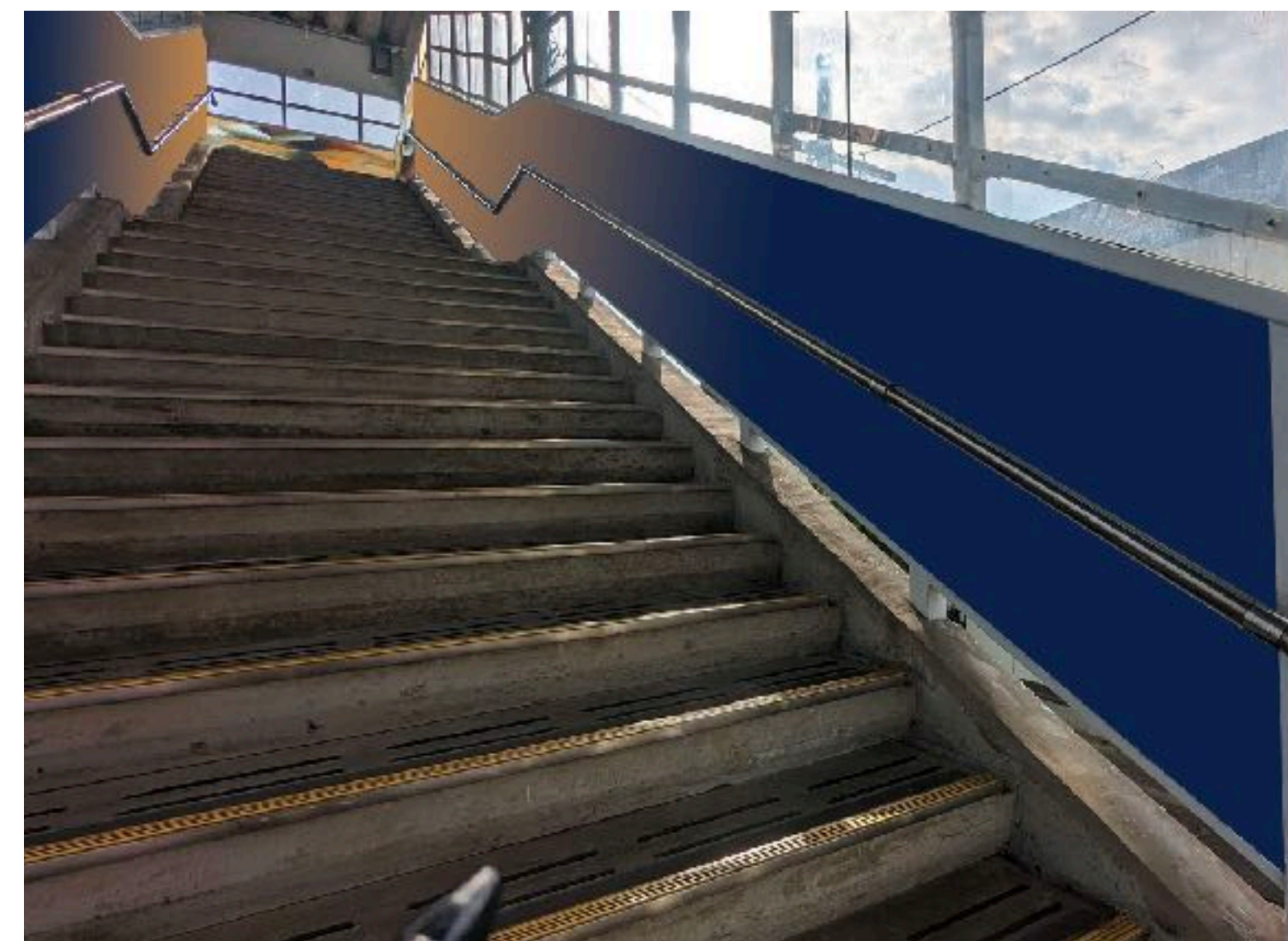
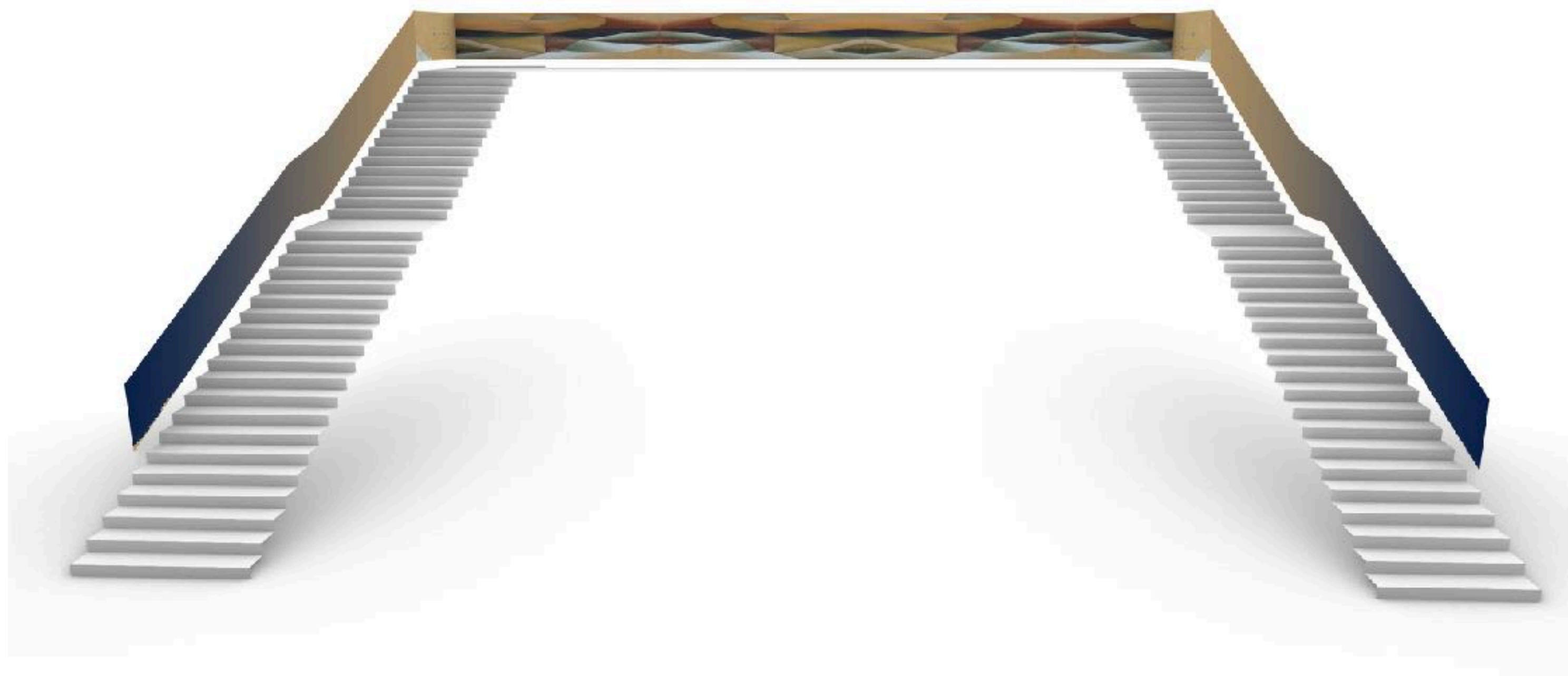
# 浜吉田駅跨線橋改修計画

## アート研究結果の実践

日本最大級の鳴き砂浜が広がる「わたり吉田浜海岸」の名を冠した浜吉田駅。

明治時代から続く駅舎の歴史も震災後の状況変化により利用者数が減少、無人化。少しずつ音色を失っていく駅舎に彩りと活力を呼び戻すため、かねてより研究してきた砂を使った絵画表現の方法が今この駅の修繕において重要な意味をなすと感じた。砂を通じて地域の可能性や独自性を表現し、寂しさが漂う駅舎に砂が描く色彩をもって新たな命を吹き込むためのプロジェクトを企画した。





跨線橋のパースイメージ

# 令和6年度 活動方針

# 悠里館コンコース改修計画

前計画の新規実施場所として

- アートを通じて、塩田や潮干狩りなど様々な形で亘理の生活を支え続けてきた”砂”の存在を再評価するプロジェクト。
- 浜吉田跨線橋から場所を移し本計画は悠里館渡り廊下で最終的な実施を決定。
- 合計13枚の大型作品の連作を4月から着手し、六月末には常設展示の開始を予定。

